

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人 普門院診療所		
事業所名	グループホーム能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、里山や農家が散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の場の必要性を感じ開設したホームである。開設にあたっては、高齢者福祉の先進国スウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣し、グループホーム運営のノウハウを習得している。「他社を自己と平等とみなして個性と尊敬、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供すること」を理念に掲げ、職員は明るく、優しい声かけや態度で入居者に接している他、音楽療法も取り入れるなど、入居者の張り合いにもつながっている。また、地域住民を対象に認知症についての講話や運営推進会議の議事録をホームページ上で公開するなど地域に開かれた施設運営に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、町西部の周辺を里山や田畑に囲まれた、四季折々の変化を感じる事のできる場所に位置している。スウェーデンの先進的な高齢者福祉を範とし、仏教の精神を取り入れた「他者を自己の如く尊重する「能羅」の知恵を目標とし入居者の個性と尊敬を重んじ、本人の意思を尊重して本人の立場に立って望ましい介護サービスを提供する」をホームの理念とし、常に理念を意識した支援に取り組んでいる。また、スウェーデンの介護施設の特徴を取り入れ、断熱材や三重ガラス等で気密性を高め、暑さや寒さから室内を快適に保っている。さらに、各居室内にはトイレやシャワーが設置されており、衛生面や個人のプライバシーに配慮されている。ホームの経営母体が医療法人であり、また、管理者が医師であることから、重度化や看取りにも積極的に取り組んでおり、本人や家族の安心にも繋がっている。地域との関係も良好であり、地域行事やホーム行事での相互交流や災害時における協力体制等も構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りで日々の状況を把握すると共にミーティングにおいて常に意見交換している。	入居者の立場に立ち、本人の尊厳や個性を活かしながら本人本位の支援に取り組んでいくことを理念としており、職員会議等において理念の確認を行いながら、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時など声を掛け合ったり、花などをいただいたりしている。又、地域の新年会に参加したり交流を計っている。	近隣住民からの野菜の差入れや新年会等の地域行事への参加の他、ホーム主催の納涼祭やクリスマス会等に地域住民の参加もあり、地域との相互交流に取り組んでいる。また、ホームの見学も自由にできる様になっており、地域に開かれた施設となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が医療機関であることを活かし、医師が認知症や健康についての講話を町のホールやホーム等でいき、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場で問題となっている事など報告し、アドバイスをもらい、解決につなげている。資料もたくさんいただき職員間で目を通し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族代表、民生委員、町職員、地域包括支援センター等が構成員となり2か月に1回開催している。会議ではホーム側からの利用状況等の報告や参加者からも入居者支援や地域交流等における提案や課題が出されており、協議を重ね、運営に役立てている。	毎回、参加者が固定しているため、会議がさらに充実したものになる為にも、例えば、防災等が議題になるときは、消防署員や地域の消防団関係者、警察官等にも参加を呼掛ける等の取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき現場状況を報告している。	町担当職員には、運営推進会議出席時等にホームの取組状況や課題等を理解してもらっている他、運営や制度に関する相談や情報交換も行われており、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、身体拘束をしない為にはどのような対応をしたら良いかなどの話し合いを行っている。	職員は内部研修等において身体拘束や虐待防止について学んでおり、身体拘束や虐待の無い支援に取り組んでいる。入居者への言葉かけも大きな声を出さず、一定のトーンで側に寄って話す様に配慮している。玄関は危険防止のためセンサーを設置し、施錠の無い支援を行っている。	

グループホーム能羅坊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、職員がよく理解をしている。 当施設では虐待等ありません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々に勉強し、知識はあるが加えて研修内容に組み入れ、理解と活用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームを見学してもらい、契約時には利用者・家族に疑問点や不明な点に十分な説明を行い、理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはその都度、家族には面会時や電話連絡の際に意見があればお聞きし、反映している。	家族からの意見や要望等は面会時や運営推進会議等で確認に努めており、意見や要望を表し易い雰囲気づくりに努めている。家族からは、入居者の日常生活や機能維持、重度化や終末期の対応等の要望や相談が多く、できるかぎり要望に応える支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた場合など即座に対応し、また必要に応じて意見や提案を聞く職員会議を設けている。	職員は職員会議等で管理者と話合う機会が持たれており、職員からの提案により、夕食時間を遅くする等の支援体制の見直しや入居者の状態により新たに備品類を買い足す等、職員からの提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員個々の努力・実績・勤務態度を把握し、給与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の老健施設と共に年間計画を立て、職員の勉強会を毎月開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームへの見学は随時受け入れているが、他ホームとの交流・ネットワーク作りには取り組んでいない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みや見学・相談時には、できるだけ本人にも来ていただき話をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症時期・症状等を詳しく聞き、不安や希望等を受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく聞き、グループホームでの生活が最善か見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションを積極的に行っている。その際、感情を共有したり本人から学ぶことがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や面会になかなか見えない家族には電話で状況を報告し、連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との手紙や電話でのやりとりを支援している。	入居前の自宅訪問や本人及び家族から生活歴や馴染みの人や場所等の情報の把握に努めている。知人への手紙や電話等の援助は行っているが、知人も高齢化してきており、ホームへの来所は少なくなってきている。また、ドライブの際には馴染みの場所を訪れる等、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話や気の合う入居者同士は隣席にしたり、孤立してしまう入居者には職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も継続的な関わりを必要とする家族や利用者は今までいなかったが、希望があれば断ちきれない付き合いをしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族の希望は必ず聞くようにしており、ほんにん本位の暮らし方になるように努力している。	本人や家族から生活歴や趣味趣向、得意なこと等の把握に努めており、本人の希望を確認しながら無理強ひすることなく支援する様になっている。また、思いや意向の把握が困難な場合には、馴染みの関係、仕草や表情から心の動き等を探る等、本人本位に思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や職歴、趣味を聞き取り、できる限りの活動を援助している。自宅で使用していたものを居室に持ち込み環境作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録により現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを聞き、必要に応じて家族に参加してもらい、より良い介護計画になるよう努力している。	本人及び家族の要望を確認し、必要となる支援内容の検討を行ったうえで、介護計画を作成している。家族からはリハビリや生活機能維持等の要望が多い状況にある。計画の見直しは、モニタリングを行いながら計画の達成度を確認し、職員間で協議しながら変化に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや記録等により職員間で情報を共有し、又それを介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が医療機関であるため、入居者の状態や症状から受診・入院治療が受けやすく、家族の方からも安心できるとの声がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、経営母体が診療所のため、密に連絡を取り合い対応している。診療科目にない場合は、家族と他病院にて治療をうけている。	母体法人でもある協力医療機関が隣接している事から、診療科目によっては入居時にかかりつけ医の変更をお願いしている。管理者が医師であり、ケアマネジャーが看護師であることから、職員に急変時の対応方法を教えていると共に医師による診察が迅速に行える体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	すぐに報告できる範囲にいる為、気づいた所など伝えたり相談や指示をもらうことができ、安心して対応することができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のほとんどは法人の診療所であり、入院中はまめに様子を見に行ったり、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等と早い段階で話し合いをし、方針を決めるようにしている。終末期の支援についての勉強会も開いている。	重度化や終末期における支援は、本人及び家族の希望によっては看取りまで行う方針であり、その人らしい最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。本人の状態によって異なるが、人工呼吸器の使用等、延命治療の有無も事前に家族等に確認している。	職員へは医師である管理者の指導の下、終末期における支援の研修等を実施しているが、夜勤時等に職員が一人になり、他の入居者の支援も行いながらの終末期支援には不安な面もあると思われることから、今後も継続して終末期における処遇技術の向上や支援体制の構築に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、落ち着いて対応できるようにしている。急変時の連絡の仕方などわかりやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成や火災時の避難訓練を年2回、日中と夜間想定にして実施している。また、土砂災害の避難訓練も消防署立ち会いのもと地域の方にも協力、参加していたき実施している。	年2回の消防訓練の実施やマニュアルにより災害時における手順の把握にも努めている。立地条件から土砂災害を想定した訓練も実施しており、地域住民の参加・協力も得ながら、入居者をおぶる人や一緒に歩いて避難する等の役割が決められている。また、災害時の連絡網には、地域住民に登録してもらう等、地域との協力関係が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴も把握しながら常に「同意し、否定せず」をモットーに声かけや言葉遣いを心がけて、寄り添って対応している。	年長者である入居者には常に尊敬の念を持ち、寄り添うように接しており、言葉掛けの際には、馴染みの関係にあっても慣れ慣れしくならないよう、丁寧な言葉遣いをするよう心がけている。排泄を失敗した場合等には、本人の羞恥心やプライドを損ねないようにさりげなく対処している他、呼び名等も本人の希望する呼び方で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や行動などから、何を望んでいるか汲み取り、希望に沿うよう申し送りやミーティングなどで話し合い、実行するよう努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った時間の取り方で柔軟に対応しているが病気などの緊急時は、この限りではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用はホームで行うことができるため、本人の希望を取り入れ定期的にかかっている。身だしなみは、季節・目的に合わせ、本人の希望を取り入れアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣に畑を借りており、作物を作っている。入居者と一緒に収穫しており、食べる楽しみが増えている。食事の準備や後片付けなども一緒に行っている。	朝食はホームで職員が献立を考え調理しているが、昼食と夕食は併設されている同法人事業所で一括して調理している。入居者は職員と共に出来る範囲で配膳や片付けを行い、一緒に楽しい食事の時間を過ごしている。クリスマス会や誕生会にはホームで手作りケーキ等も作っている。	法人の意向や職員体制の問題等から、3食ともホームで食事を作ることは難しいと思われるが、地域密着型サービスの家庭的な面や入居者に食事を作る際の音や匂いを思い出して貰うこと等を考慮し、昼食や夕食もできるだけホームで作られる事に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないようにバランスを考え、食事・おやつからも水分補給に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけを行い、実施している。また、状態によって歯科医の往診があり、申し込めば利用できる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンに合わせて誘導している。	個人の尊厳というスウェーデンの介護精神に基づき、一人ひとり排泄パターンに合わせた自立した排泄支援を行っている。各居室にはトイレとシャワーが設置されており、失禁時も他の入居者の目に触れることなく、迅速かつ衛生的に対応が出来る様になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品など摂取してもらっている。便秘に関しては個人のリズムに合わせて内服薬や坐薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴する方もいるが、体調も勘案しながら週に2～3回は、職員が1対1で入浴を支援している。浴槽は猫足の西洋風でやや高さがあるが、補助具等使用し、安全に配慮している。各居室にもシャワーが付いており、シャワー浴も対応できるよう配慮されている。	入居者は入浴を楽しみにしており、入浴を拒否する人はいない。毎日でも入浴出来る様になっているが、本人の希望や体調等により、概ね1日置きでの入浴が多い状況にある。浴槽は洋式でやや高さがあることから、自力での入浴が困難な場合には職員2人での支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の主張を尊重し、居室誘導している。また、不安を取り除き、安心して休むことができるよう声かけをしたり、話を傾聴する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず、内服時から終了までを確認し、変化については医師に確認後指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道・音楽療法などに参加したり、近所への散歩・洗濯たみなど嬉々として行ったり、町の芸術祭へ作品を展示したりと達成感・充実感を味わえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを兼ね町内のスーパーへ出かけたり、町のもちつきや学校の文化祭に招待され、でかけている。家族の方にも外出・外泊の声かけをしている。	敷地内や近隣への散歩の他、定期的なドライブや買い物等に出掛けている。また、地域行事への参加や町の文化祭に絵画、習字、折り紙等を出展し、見学にも出掛けている。家族には無理の無い範囲で入居者との外出を呼掛けており、外食や自宅等への外泊も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としては、自分で所持する事が難しい方が多いが、買い物の際はお金を所持して使ってもらおうと支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望で自由に使用できる。手紙も職員が補助し、希望に沿うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるため、季節に合わせた飾りを飾ったり花を置いている。	建物はスウェーデン方式の厚みのある断熱材や三重ガラス等により断熱・気密性が確保され、温度や湿度、換気が適切に管理されている。逆転の発想により、廊下等に手すりは設置せず、杖や歩行器等、入居者に合った装具を使用している。共用空間は季節感を活かした飾付けや間接照明等により、落ち着いた温かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士ソファーに座ったり、テーブル席に座っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室部分が広くとられており、本人の使い慣れた家具や装飾品など持ち込まれ安心して過ごせられるよう配慮されている。又、各居室シャワー設備もあり、いつでもシャワー浴ができるようになっている。	入居前の環境と違和感がないように、本人及び家族には使い慣れた家具や馴染みの品々の持参を促しており、家具や家電類、仏壇や家族の写真等が持込まれ、個性的な居室づくりがなされている。各居室にはトイレ、洗面台、シャワーが付いており、車椅子でも使用できる十分な広さが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	縫い物や洗濯物たたみ等、個々の力を活かしてもらっている。		